

定植準備 ～培地の復元からあく抜きまで

ココバッグはお客様の手元に届く段階では約1/4に圧縮されています。圃場に設置したあとは、培地を復元し、あく抜きをしてからご使用ください。培地の復元から定植までは1週間程度の時間をみておけると余裕を持って作業できます。



◆ ココバッグを圃場に設置したら・・・

ココバッグに水を入れて培地を復元します

- ① ココバッグに定植用の穴が開けてあるタイプの場合、図1のように、ドリッパーのスティックを赤線部分に入れます。定植穴がないタイプの場合は、図2のように、小さな切れ込みを3ヶ所開けて、スティックを入れます。

- * 図はココバッグに3つの定植穴を開け、ドリッパーのスティックを6本使用する場合の例です。定植穴が2つや4つの場合は、定植穴の数に合わせたスティックをココバッグに入れてください。
- * 培地が袋の中心にくるように設置し、定植穴それぞれにスティックを均等に（同じ本数）ずつ入れると培地がきれいに膨らみます。

- ② 1つのココバッグあたり22～23Lの水が、2～3日かけて溜まるように給液制御盤のタイマーを設定し、ココバッグに灌水していきます。

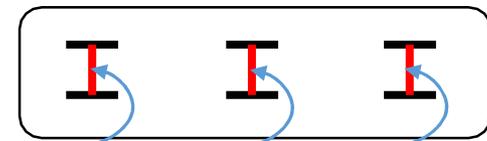


図1 定植穴ありタイプ（3つ穴）の場合

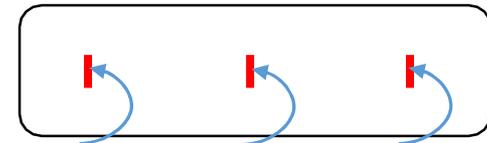


図2 定植穴なしタイプの場合

復元期間	1回の灌水量 (1つのココバッグあたり)	灌水回数	設定時間例
3日	600ml (スティック6本なら100ml/1本)	38回	5時～17時まで1時間に1回



◆ ココバッグが復元できたら・・・

排水スリットを開けます

ココバッグが膨らんだら、ココバッグから排水を出すためのスリットを、カッターナイフ等を使って、L字状（側面3cm×底面3cm程度）に3ヶ所入れます。勾配が低い側の袋の角は水が溜まりやすいため、3ヶ所のうちの1ヶ所は、袋の角にスリットを入れます。残り2ヶ所は定植穴の下を切ります。

ヤシガラ培地のあく抜きをします

定植日までの間は、給液制御盤のタイマーを設定し、排水がEC1.0mS/cm以下になるまで灌水します。1株1日あたり100ml×5～10回、1～2時間おき、3～5日程度が目安です。

排水ECが下がったあとも、培地が乾かないように（1日3回程度で十分です）、定植日まで灌水を続けます。

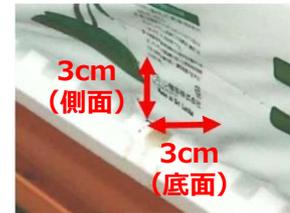
* 定植までの日数に余裕がない場合は、1日の灌水回数を増やすことで早くあく抜きできますが、ゆっくりと時間をかけて灌水すると、培地のあくが水に染み出し、排出されやすくなります。



勾配
低い

勾配
高い

ココバッグの一番角を切る（一番排水が溜まる部分）
定植穴の下を切る（定植穴の真下から少しずらす）



3cm
(側面)

3cm
(底面)



◀動画で排水スリットの開け方を説明しています！

<https://youtu.be/zfuvRTm9dAI>



ご注意
ください

ココバッグは養液栽培専用培地のため肥料成分が含まれていません。また、ヤシガラ培地はカルシウムなど肥料分を吸着する性質があるため、栽培開始前にココバッグ内に液肥（EC1.0mS/cm程度）をかけておくことをおすすめします。また、あく抜きが十分に行われていない場合、生育不良を起こす可能性があるためご注意ください。